



これからのAPT: 2021年バージョン



アジア電気通信共同体 事務総長 **こんどう まさのり**
近藤 勝則

1. あいさつ

2021年2月9日よりアジア電気通信共同体 (Asia-Pacific Telecommunity: APT) の事務総長*1に就任いたしました。2020年12月に開催された総会 (General Assembly, GA) における選挙で当選したわけですが、これもひとえに関係者の皆様、特に日頃からAPTの活動にご参加いただいている方々の貢献の一つひとつが「日本」に対する信頼の蓄積となり、加盟各国からの支持につながったおかげと感謝しています。事務総長に就任し、今後様々な取組みをしていく所存ですが、今回はその全体像を紹介した上で取組みプランの一端に触れてみたいと思います。

2. APT活動の役割と機能

広報分野の努力不足もあってか、時々 APTは国際電気通信連合 (ITU) のためにアジア太平洋地域において活動する機関のように勘違いされることがありますが、APTは独自のミッション*2と活動内容を持ち、キャッチフレーズとして「アジア太平洋地域においてICT分野に特化した唯一の国際機関」をうたっています。他方、ITUにはアジア太平洋地域を含む世界各地に地域事務所があります (ITUアジア太平洋地域事務所はAPT本部と同じタイのバンコクに所在し、お互いのオフィスの物理的な距離は2キロ程度です。

近くITU地域事務所は引っ越しをする予定で、実現すれば APT事務局とは通りを1つ挟んだ反対側の隣人同士となります。もちろんITUはAPTにとって最も重要なパートナー機関の1つであって、多くの方がご存知のように業務上でも緊密なやりとりを日常的に行っています。そのようなITUと APTの連携が、APTの活動の上でどのような位置付けにあるのかを含め、以下APT活動を紹介していきたいと思います。

まず全体像の把握です。APTという組織の活動を概観する場合には、視点の持ちようによっていくつかの側面に光を当てることができます。第一に国際機関としてカバーしている活動の分野の側面からは、国際公共政策における政策調整、人材育成、開発援助のそれぞれの分野を三位一体として活動しています (図1参照)。これらを機能として見ると、私が事務次長選挙の候補者として立候補した際 (2014年) にキャッチフレーズの一環で示したのですが、APTが行っている活動は“Consolidate Regional Voice” (地域の声の集約) と“Promote ICT Development in the Region” (地域のICTの発展支援) の2つの機能に分けられます (図2参照)。

上記を踏まえた上で、現在行っているAPT活動全体を眺めると、図3「APT活動の全体像」のようになります。



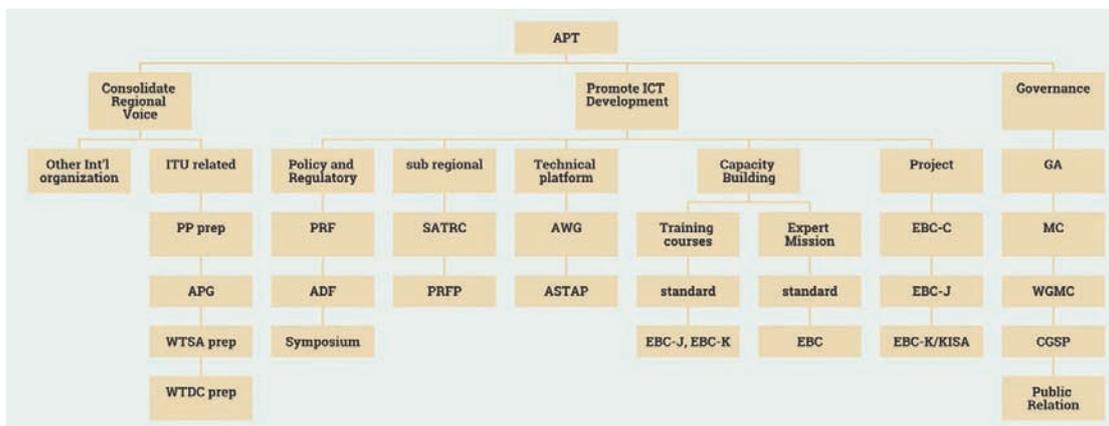
■図1. APT活動の分野による分類 (国際公共政策の三位一体活動)

*1 これまで英語のSecretary Generalに対して「事務局長」、Deputy Secretary Generalに対して「事務局次長」の訳語を使用してきましたが、今後はそれぞれ「事務総長」、「事務次長」の訳語を使用することになりました。

*2 APTの憲章において“to foster the development of telecommunication services and information infrastructure throughout the region with a particular focus on the expansion thereof in less developed areas.”と規定されており、具体的な手段として「ICTインフラとサービスの普及・促進」、「共通関心分野での協力」、「ICT政策・規制の調査研究・分析」、「ICT発展に向けた技術移転・人材育成」及び「世界への発信力強化のための域内政策調整」の5つが挙げられています。



■図2. APT活動の機能による分類



■図3. APT活動の全体像

ご自身が参加される会合、あるいはご提案いただくプロジェクトやトレーニングコースがAPT活動全体の中でどのような位置付けにあるものなのか把握していただけたと思います（ITU conference関係の準備会合は「地域の声の集約」の一環となります）。

3. 2021年に取り組むこと

事務総長就任後取り組んでいきたいことは大きく2つの側面に分けられます。

1つは事務局内部の運営について、もう1つは図3で示したそれぞれの活動（Work Programme）についてです。まず事務局内の業務関連では、現行のAPTウェブサイトを開及的速やかに更改します。また、現在のレジストレーション手続きの簡素化・効率化・システム化にも着手します。それ以外にもインターンの受け入れ、契約コンサルの活用など、組織の活性化と柔軟性確保、既存リソースの有効活用など、APTが組織として基礎体力を養いつつ、情報発信力を強

化して新たな高みに飛躍できるようにしたいと考えています。このような組織としての基礎体力を向上させ、APTが地域の発展に寄与していくことは、ICTの利活用の有無が直接人々の生活に影響を与えている現状において特に重要になっています。これまではICTの重要性の理解を広めること・深めること自体が一つの大きな政策課題であったわけですが、COVID-19の影響でその部分の課題は一気に埋められ、今後アジア太平洋地域のデジタルトランスフォーメーションを牽引していくべき存在としてAPTへの期待値は高くなっています。もちろんデジタル・デバイドの現状が突然解消されたわけではなく、インフラ面からICT利活用面までの課題は依然として、むしろより顕在化し深刻度合いが増したかたちで、存在しています。だからこそAPTへの期待が高まっているわけですが、そのような期待にしっかり応えていくためには、事務局の事務処理・遂行といった基礎体力の充実と組織としての新陳代謝の維持・向上が不可欠です。細マッチョな組織を目指します。



■ 図4. Promote ICT Development Structure

2つめの活動（Work Programme）については、既存のWork Programmeの見直し・充実（図4）と新規活動へのチャレンジです（図5、6）。図4で示している（色を強調している）既存のWork Programmeは、目的の再構築といった内容面や成果主導型（output oriented）への転換といった運営面などでまだまだ改善の余地があり、参加されている方々からも様々なアイデアをいただいたりするので、それらを実践していくことで一層の充実を図っていきます。

図5は、今後新規に着手していきたい活動分野を示しています（色を強調している部分）。その詳細はメンバーの方々の意見を反映させながら企画案を精査していくこととなりますが、既に少しずつプレストしたり、関係者からのヒアリングをしたりしながら案を練っているところです。なお、この場を利用して今後のプランとしてお話ししたいのが、図6の広報（Public Relation）の部分です。これまでのAPTは、広報（対メンバー、対パブリック）という面では非常に脆弱であり、加盟国・メンバー各社様とのコミュニケーションには改善の余地が大いにあり、またメンバーの立場からすれば、APTの会合に出席する以上の関係性が構築できていた

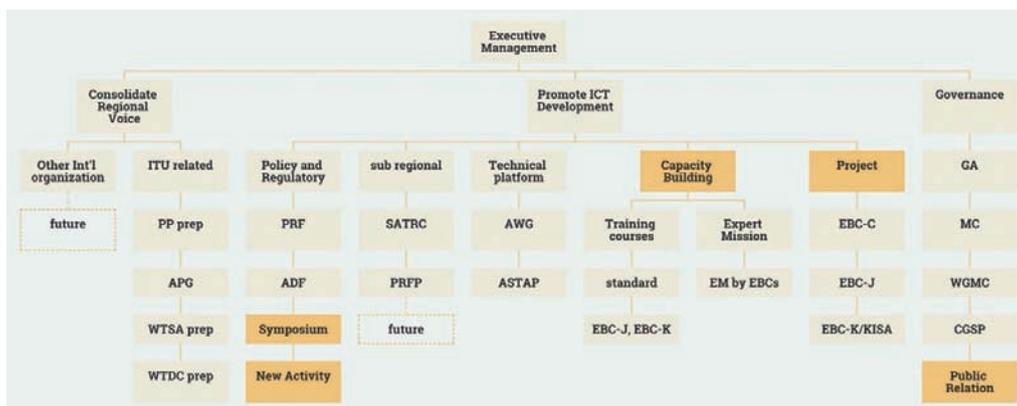


■ 図6. Governance Activity

とは言えないと思います。この点で今後更改する予定のAPTウェブサイトを活用し、例えば、私が事務次長時代に始めた「Insight of the Top」のコーナーに各社トップの方のインタビューを掲載したり、メンバー国・各社がアピールしたい5Gのユースケースの紹介コーナーとか、任意でメンバー各社の企業紹介ページのアップロードをしてもらったりすることなど、APTの広報とともにメンバー国・各社との相互の関係を深め、それぞれの広報にAPTを活用してもらうことの可能性を模索していきます。

4. おわりに

ここで述べたこと以外にも、活動の3本柱のうちの重要な2本、人材育成（トレーニングコース）と開発援助（Extra-Budgetary Contribution、任意拠出金によるプロジェクト）について、現在のやり方や内容がベストなのかどうか、仕組みや内容、選考プロセスからフォローアップ、効果測定や評価、出口戦略の構想のあり方など、その見直しをしていきます。事務総長の任期は2024年2月までとなります。今後3年間全力を尽くしていきたいと思います。引き続き、皆様のご指導・ご鞭撻をよろしくお願いいたします。



■ 図5. Challenge (new activity)